

バックキャストिंगの手法について

◆ 基本計画の考え方

基本計画は、行政分野ごとの目指したい将来像や取り組みを示す 25 の施策で構成されます。前期基本計画策定時には、バックキャストिंगという手法を用いて、各施策の取り組みを検討しました。バックキャストिंगとは、まずゴール(目指すべき理想の姿)を先に明確化し、そのゴールに到達するために必要なプロセスや道筋を逆算的に考える方法です。

具体的な検討プロセスとして、単にゴールを設定するだけでなく、以下のステップを踏みました。

まず、現状(①)の把握とともに、社会潮流等の影響により10年後に心配される三田の状況(②)を想定しました。そうした状況が顕在化しないよう、理想的な将来像である10年後に目指したい三田の状況(③)を掲げ、心配される三田の状況(②)とのギャップ(=課題)を解決するために取り組む内容を、基本計画各施策の取り組みとして設定しています。

後期基本計画も、前期基本計画と同様の手順を踏みますが、総合計画は、市の長期的なまちづくりの指針として、まちづくりの方向性やそれを実現するための取り組みを示すものです。そのため、短期的な視点だけでなく、持続可能性を重視しながら将来的なビジョンを含めて策定することが求められます。前期基本計画では、10年後(総合計画終期である令和13年度)をゴールとして設定していますが、後期基本計画では、成果指標については計画終期の令和13年度を基準としつつ、「目指したい三田の状況・将来像」等といった定性的なビジョンについては、令和13年度(5年後)に留めるのではなく、長期的な目標として10年後をゴールとして設定したうえで、具体的な施策や取り組み内容を検討していきます。

